



「院内銀山真景甲子春月図(縦57.5×横105cm)」 元治元年(1864年) 近松永和 筆 湯沢市所蔵

平成29年

7月14日(金) ▶ 8月27日(日)

展示会場

湯沢市院内銀山異人館

湯沢市上院内字小沢115 TEL.0183-52-5143

基調講演「院内銀山の始まりと隆盛」

講師 今井忠男(秋田大学鉱業博物館館長) 場所 院内銀山異人館

7月14日(金) 13:30~14:30

開館時間 9:00~16:30

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)

入館料 大人320円、中学生以下200円
(団体20名以上 大人210円、中学生以下150円)

《基調講演・ギャラリートーク入場無料》

主催

湯沢市院内銀山異人館、
秋田大学大学院国際資源学研究所
附属鉱業博物館

後援

湯沢市、湯沢市教育委員会

ギャラリートーク

案内人 今井忠男

(秋田大学鉱業博物館館長)

場所 院内銀山異人館

7月14日(金) 14:30~15:00

惣山奉行

平成29年度 院内銀山異人館・秋田大学連携展

梅津政景が興した
秋田の鉱山と町

院内銀山の坑内とは？

3つの「院内銀山鋪岡略絵図」で見る坑内現場



① 安政3年(1856年)
秋田大学図書館所蔵



② 安政3年(1856年)
鉱業博物館所蔵 秋田藩鉱山奉行 大貫忠誨 筆

院内銀山鋪岡略絵図とは？

院内銀山の坑内絵図は、秋田県内に同様のものが3つ確認されています。これらの絵図は、すべて同じ構図で、上部の直線的な大切坑(水抜坑)に繋がる地下の各採掘現場と、水の汲み揚げの様子が描かれています。

絵図が書かれた時代背景

3枚の絵図うち、古い方(①と②)は、天保の盛山(1830～1844年)といわれた銀山大繁栄のすぐ後、安政3年(1856年)に描かれたものです。②と③は作者の名前が書かれていることから、「写し」の可能性が高く、細部まで同じ構図をしています。

絵図が示す坑内排水のシステム

左上①の絵図は、他の絵図と細部が違い、大切坑が下部の坑口から五番坑近くまで、水色の線で簡略に繋がっています。これにより、採掘場から汲み上げられた排水が、大切坑へと流されていく様子が、水色の線で示されている資料価値の高い重要な絵図です。



③ 元治元年(1864年)
湯沢市所蔵 近松永和 筆